

事業概況

Segment Information

日本

販売拠点 48
 生産拠点 9
 商品センター 4

THK株式会社

LMガイド、ボールねじ、特殊軸受等の製造・販売

大東製機株式会社

機械要素部品、機械要素装置の製造

トークシステム株式会社

機械部品、各種機械の販売

株式会社ベルデックス

硝子等硬脆板材の加工装置、光学機械器具等の製造・販売

THK新潟株式会社

ボールスプラインの製造



THK本社



甲府工場



THK新潟株式会社



山口工場



大東製機株式会社 三島工場



山形工場



大東製機株式会社 仙台工場



三重工場



大東製機株式会社 松本工場



岐阜工場

米州

アメリカ

販売拠点 9
 生産拠点 1

カナダ

販売拠点 1

ブラジル

販売拠点 1

THK Holdings of America, L.L.C.

米州のグループ企業の特株会社

THK America, Inc

LMガイド、ボールねじ、特殊軸受等の販売

THK Manufacturing of America, Inc.

LMガイド、特殊軸受の製造



THK America, Inc.
Head Office



THK Manufacturing of
America, Inc.

グローバルネットワーク



欧州

ドイツ

販売拠点 3

イギリス

販売拠点 1

アイルランド

販売拠点 1

生産拠点 1

オランダ

商品センター 1

イタリア

販売拠点 2

スウェーデン

販売拠点 1

オーストリア

販売拠点 1

スペイン

販売拠点 1

フランス

販売拠点 1

生産拠点 1

THK Europe B.V.
欧州のグループ企業の持株会社

THK GmbH
LMガイド、ボールねじ、特殊軸受等の販売

THK France S.A.S.
LMガイド、ボールねじ、特殊軸受等の販売

THK Manufacturing of Europe S.A.S.
LMガイド、ボールねじ、特殊軸受の製造

PGM Ballscrews Ireland Ltd.
ボールねじの製造・販売



THK Europe Head Office



PGM Ballscrews Ireland Ltd.



THK Manufacturing of Europe S.A.S.

アジア

中国

販売拠点 3

生産拠点 3

台湾

販売拠点 3

シンガポール

販売拠点 1

インド

販売拠点 1

韓国

販売拠点 12

生産拠点 1

THK TAIWAN CO., LTD.
LMガイド、ボールねじ、特殊軸受等の販売

THK (CHINA) CO., LTD.
中国のグループ企業の統括会社

THK (SHANGHAI) CO., LTD.
LMガイド、ボールねじ、特殊軸受等の販売

DALIAN THK CO., LTD.
ボールねじの製造・販売

THK MANUFACTURING OF CHINA (WUXI) CO., LTD.
LMガイドの製造

THK MANUFACTURING OF CHINA (LIAONING) CO., LTD.
LMガイドの製造

Beldex KOREA Corporation
硝子等硬脆板材の加工装置、光学機械器具等の製造・販売

SAMICK THK CO., LTD.
LMガイドの製造・販売



DALIAN THK CO., LTD.



SAMICK THK CO., LTD.



THK MANUFACTURING OF CHINA (WUXI) CO., LTD.



THK MANUFACTURING OF CHINA (LIAONING) CO., LTD.

日本 Japan

2005年度の日本国内での売上高は前期比6.3%増の1,122億円となり、過去最高を達成しました。2004年5月に発表した中期経営計画では、2004年の終わりから2005年にかけてエレクトロニクス業界が調整局面に入り、それに伴って当社製品の需要も減少するとの想定から、2005年度は前期比減収となる計画でした。しかしこうした厳しい外部環境の見通しを持ちながらも、将来のさらなる成長を目指して積極的な経営を推進いたしました。その結果、自動車産業の好調を背景に工作機械、一般機械が好調に推移し、加えてエレクトロニクス関連の調整幅が想定より浅く、期間も短かったこともあり、実績としては減収計画から一転し、過去最高を達成することが出来ました。

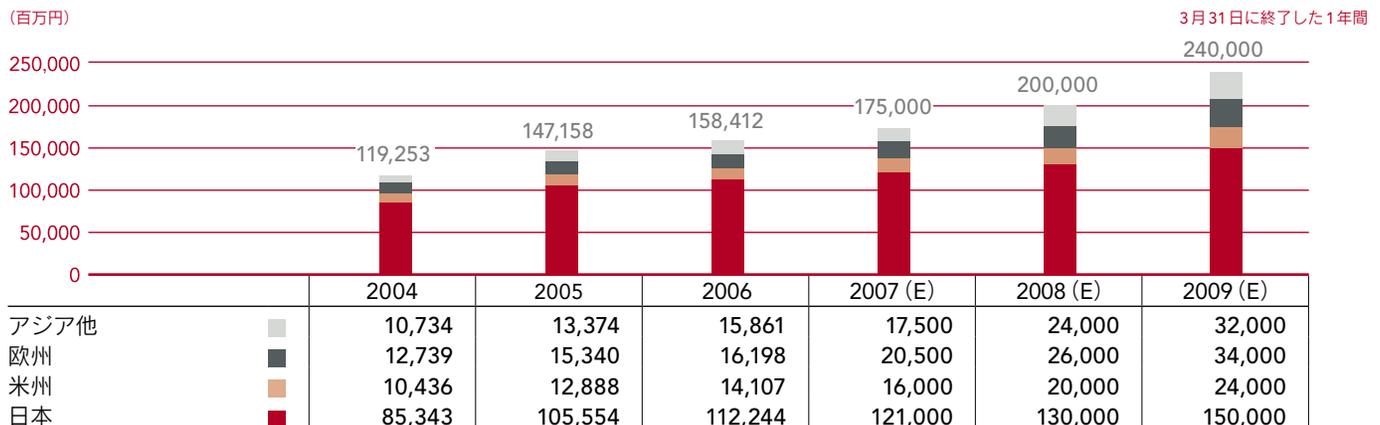
生産面においては、当初の減収計画を受けて工場に余力があると考え、生産効率の改善と、品質のさらなる向上を目的に、国内

5工場間での生産品目の再編を実施いたしました。想定に反して需要環境が好転したため、生産量が増加する中での再編作業となり一時的な混乱が発生しましたが、2006年度に向けて着実に収益面での強化を図ることができました。

販売面では営業マンのスキルアッププログラムであるTAP1活動 (THK Advantage Program) を継続的に推進することにより、問題解決型の提案営業の深化を図ることができました。新規分野であるFAI事業部では国内大手自動車メーカーとの取引関係を強化することにより、当社製品の採用車種が増加し売上高を拡大することができました。免震関連を扱うACE事業部では今後の拡販にむけた積極的なPR活動を展開しました。開発面では、THK初の電気制御ユニット製品であるTDドライバーの開発など、エレクトロニクス関連技術の開発に本格的に取り

地域別売上高

(百万円)



組んだ“開発元年”として記念すべき年になりました。2005年7月には、よりスピーディーな開発を目的として、技術関連部門を集約し、研究開発の中核施設として、テクノセンターを開設いたしました。また、3次元CADの導入により開発納期の短縮化、設計の高度化を図ることができました。

2006年度の国内売上高は前期比7.8%増となる1,210億円を計画しています。計画の達成に向け、販売面の強化を図るべくTAP1活動を継続的に推進します。生産面では、受注の増加に対応するため、2006年12月の稼働を目指し山形工場の第3工場の建設、2007年2月の稼働を目指しTHK新潟の増設を行います。さらに岐阜工場には物流センターを設置し、現在東京と大阪にあるセンターの機能を集約化していく計画です。開発においてはモジュール化のニーズへの対応範囲を広げるために、

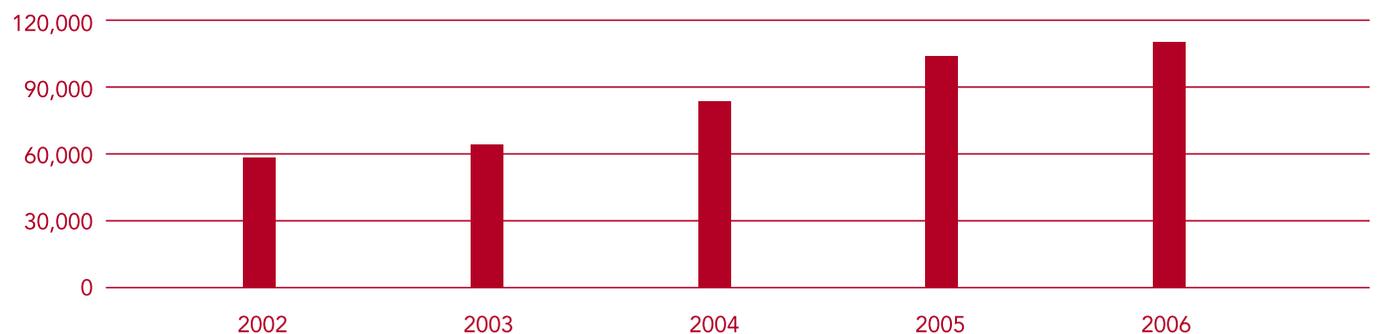
サポート技術であるエレクトロニクス技術の開発に積極的に取り組んでまいります。LMガイド、ボールねじなどのコンポーネント品については、リテーナシリーズの拡充を図るとともに、特殊使用製品、高機能製品の開発に注力していきます。

これまで好調を維持してきたアメリカ経済の減速による日本経済への影響など、マクロ的な懸念材料は払拭できません。しかし、産業別に見ると日本の自動車メーカーなどは引き続き高水準の設備投資が実施されるとみられることから、当社の工作機械向けは当面堅調に推移すると考えております。エレクトロニクス向けについても下期以降、不透明感はあるものの第一四半期終了時点では概ね堅調に推移しています。2010年ビジョンで掲げる2010年度の国内売上高目標1,500億円に向けて、今後も販売、生産、開発全ての面で積極的な経営を推進してまいります。

売上高

(百万円)

3月31日に終了した1年間



アメリカ North America



(左より)

桑原 淳一 取締役 THK Holdings of America L.L.C.
代表取締役社長
THK America, Inc. 代表取締役社長

榎 信之 THK Manufacturing of America, Inc.
代表取締役社長

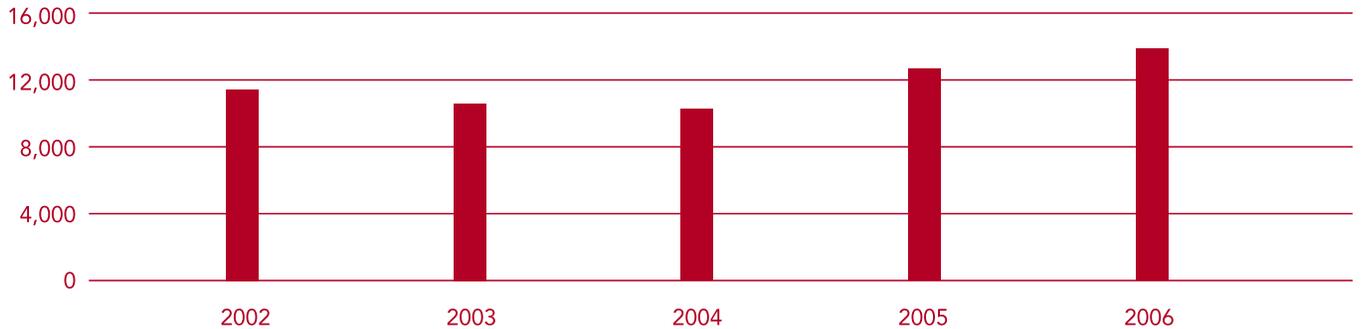
THK Holdings of America, L. L. C.はアメリカの販売、生産会社を統括するホールディングカンパニーです。2005年度の売上高は、前年に比べ7.3%の増加(現地通貨ベース)と前期に続き増収を達成することができました。売上高増加の背景にはアメリカ経済が総じて堅調に推移したといった外部要因が挙げられます。しかしそれ以上に、生産子会社である、THK

Manufacturing of America, Inc. (TMA)と販売子会社であるTHK America, Inc.との製販一体となった取り組みの成果であると考えております。TMAでの習熟度の向上によりお客様の必要な時に必要な製品を供給できる体制が整いました。THK America, Inc.ではこれを活かし他社より有利に商談を選び受注増へと繋げることが出来ました。さらにTMAでは受注の増加による操業度効果で製造原価が低減するといった好循環が形成され、製販一体となった相乗効果が現れました。その結果、営業利益も前期に続き増益を達成することができました。2005年度は2010年度ビジョンの前半を締めくくる重要な年でした。その重要な年に今後の成長に向けて、アメリカにおける製販一体体制をより強固にすることが出来ました。

売上高

(百万円)

3月31日に終了した1年間



THK America, Inc.は北米マーケットにおける販売子会社です。2005年度は前期に続き増収を達成することができました。売上高の増加の要因は既存顧客との取引拡大に成功したことです。具体的には大手工作機械メーカーでの当社製品のシェアを向上させることが出来ました。また、大手完成車メーカーにおいては当社製品の採用車種を増加することが出来ました。これらを支えた背景としては次の二つが挙げられます。一つはTHK独自の社員教育プログラム「TAP活動」の推進により営業社員のスキルの向上が図られたことです。営業社員は単に製品を販売するのではなく、お客様が直面されている問題を発見し、解決策を提示する上でのコンポーネントとして当社の製品を採用して頂くといった提案型営業が出来るようになりました。もう一つは生産子会社であるTMAにおける習熟度の向上により、お客様の必要な時に必要な製品を供給できる体制が整い、他社より有利な営業展開が出来たことです。一方で将来の成長に向けてカナダ、メキシコなどの新規市場の開拓にも注力しました。既にカナダには販売拠点を設けて営業活動を展開しており、市場開拓は着実に進んでいます。メキシコは2005年に営業スタッフを駐在させ、本格的な市場開拓に取り組み始めました。

2006年度、アメリカにおける売上目標は1億4,500万ドルです。アメリカ経済全体の減速懸念は払拭できません。しかし、如何なる外部環境下においても既存顧客との取引拡大と新規市場の開拓に注力し、是非ともこの目標を達成したいと考えております。

TMAは、LMガイドおよびリンクボールの北米における生産拠点です。2005年度は習熟度の向上に努めるとともに、工場のレイアウトの全面的な見直しを実施しました。これにより工程間のアイドルタイムが短縮され生産能力は20%以上向上して、受注の増加に対応することができました。2005年末の段階で機械設備はほぼフル稼働の状況になっています。こうした状況を踏まえて、2006年度は生産性向上にむけた取り組みを一層強化します。それに加えて、LMガイドの研磨機を新たに導入して生産能力を増強する計画です。受注の増加にこれらの取り組みで対応し、現地生産比率は目標値である50%を維持します。TMAは、アメリカにおける唯一の生産拠点としての供給責任を果たすべく、今後またゆまぬ生産性の向上とともに生産品目の拡充に努めてまいります。

ヨーロッパ Europe



(右より)

林田 哲也 取締役 THK Europe B.V. 代表取締役社長
THK GmbH 代表取締役社長
THK France S.A.S. 代表取締役社長
PGM Ballscrews Ireland Ltd.
代表取締役社長

齊藤 洋 THK Manufacturing of Europe S.A.S.
代表取締役社長

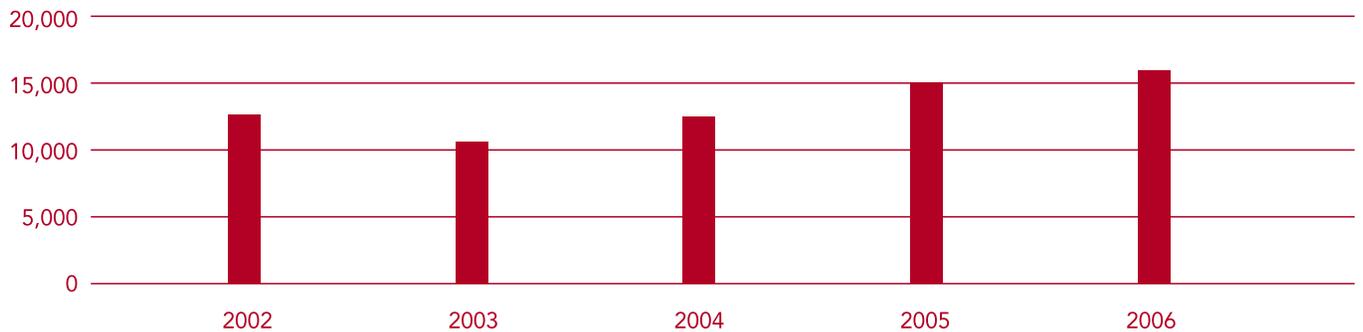
ヨーロッパにおける販売、生産会社を統括するホールディングカンパニーであるTHK Europe B.V.の2005年度の売上高は、前年に比べ3.9%増加し(現地通貨ベース)、過去最高の売上高を達成することが出来ました。ヨーロッパ経済が緩やかな回復基調で推移するなど、外部環境に支えられた面もありますが、アメリカと同様、製販一体となった取り組みの成果であると考えています。2005年度はここヨーロッパにおいても製販一体体制をより強固にすることが出来ました。

ヨーロッパにおける販社の2005年度の売上高は、3期連続で増収となり2000年度を超え過去最高を達成しました。2005年度はヨーロッパ経済が緩やかに回復するなかで、アメリカと同様に既存顧客との取引拡大につとめました。その結果、主力のユーザーである工作機械、一般機械メーカーにおける当社製品のシェア向上に成功しました。また、大手完成車メーカーにおける当社製品の採用車種も増加し、これらが売上高増加の主要因となりました。その他、今後の成長に向けてチェコ、ポーランド、トルコなどにおける代理店への販売支援強化、ロシアにおける代理店網の整備など、新興市場における新規顧客開拓にも積極的に取り組みました。11月には、ドイツにおける技術規格であるTÜV(テュフ)の認証を取得しました。これにより現地ユーザーが当社製品を採用するにあたっての障壁は低くなり、有利な営業展開が可能になりました。そのほか、物流の

売上高

(百万円)

3月31日に終了した1年間



集約化、業務の効率化による収益性の向上にも努めました。2006年度の売上高は前期比2割増の1億4,600万ユーロを計画しております。売上高の増加に向けて、新興市場における新規顧客の開拓および大手完成車メーカーなどの既存顧客との取引拡大に注力します。製品面では生産子会社であるTHK Manufacturing of Europe S.A.S. (TME) を活かしユニット品の販売を強化します。機械産業の歴史が深いヨーロッパにおいて、現地の伝統や文化を尊重しつつTHKのDNAの注入に全力を注ぎ、是非とも目標を達成したいと考えております。

2005年度、TMEでは、生産性の向上にむけて多能工化の推進、現有設備の多品種対応、工程間物流の最適化などの現場改善活動を昨年度に引き続き実施いたしました。その結果、人員数の増加などの固定費負担を吸収して、昨年度に続き黒字を達成することができました。2005年度の段階でヨーロッパにおける現地生産比率は約40%まで上昇しております。今後は現地需要の50%を供給できる体制を目指すとともに、ヨーロッパのお客様の細かいニーズに対応できるよう生産品目の拡充に努めてまいります。

アジア Asia



(左より)		
大久保 孝	取締役	THK(中国)投資有限公司 総経理 THK(遼寧)精密工業有限公司 総経理
佐藤 俊幸		THK(上海)国際貿易有限公司 総経理
今野 宏		THK(無錫)精密工業有限公司 総経理
大上 進		THK TAIWAN CO., LTD. 総経理
大野 和重		大連THK瓦軸工業有限公司 総経理

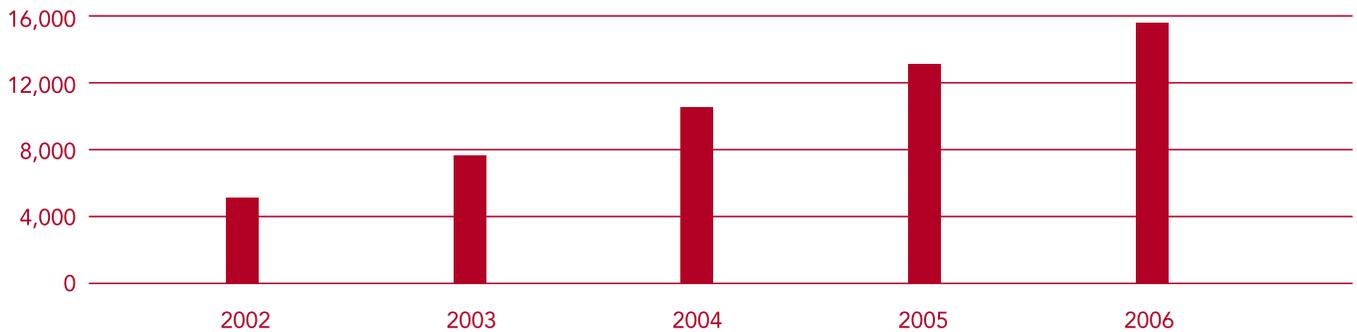
アジアでは、近年、急成長を遂げている中国をはじめ、台湾や韓国などにおける、販売、生産体制の拡充に力を入れております。1989年に台湾の販売拠点としてTHK TAIWAN CO., LTD.を設立したのを皮切りに、1991年に韓国の三益 LMS CO., LTD.に資本参加し、技術提携いたしました。1996年に中国の大連市に大連THK瓦軸工業有限

公司を設立し、精密ボールねじおよびアクチュエータの製造・販売を開始しました。2003年に上海市にTHK(上海)国際貿易有限公司を設立、翌2004年には中国では初のLMガイド工場となるTHK(無錫)精密工業有限公司を設立し、2005年2月から出荷を開始しました。また、2005年3月には大連市にTHK(遼寧)精密工業有限公司を設立し、2006年8月から出荷を開始する予定です。2005年9月には中国における国内販売力及びマネジメント強化、意思決定の迅速化、ならびに各独立会社が持つ重複機能を一元管理することなどを目的として、中国における統括会社であるTHK(中国)投資有限公司を設立いたしました。これにより中国における直接販売権を取得することが出来ました。2005年度は製販一体体制に向けた準備期間でした。いよいよアジアにおいても製販一体となった事業展開を図ることができている段階になってきています。

売上高

(百万円)

3月31日に終了した1年間



THK TAIWAN CO., LTD.の2005年度の売上高は、前年に比べ現地通貨ベースではほぼ横ばいとなりました。中国における投資抑制策の影響により、工作機械、一般機械メーカーからの受注が伸び悩んだことが大きな要因です。そのような中で代理店との連携強化や、新規訪問の積極化などによる新規顧客および新規用途の開拓に注力しました。新規用途に関しては、地震国台湾において免制震技術の権威である大学教授に当社の免制震装置について高い評価を頂き、今後の拡販に向けた地ならしが出来ました。一方、営業利益は前年に比べて約2倍に増加し過去最高を達成しましたが、利益率にはまだ改善の余地があります。販売コストの効率化を進めるとともに、今後、中国で生産されるローコスト製品の拡販に努め、利益率の更なる向上を図ってまいります。

大連THK瓦軸工業有限公司は、すでに4班3直による1日24時間、年間350日稼働の生産体制となっております。2005年度は設備の増強と工程フローの見直しを実施しました。その結果、月間生産能力が約50%増となり、売上高は前年に比べて30%を超える増収となりました。現在は4割が現地販売、6割が日本への輸出となっております。現地需要は旺盛であり、今後も生産能力を上回る受注が見込まれます。大連THKは中国におけるボールねじの生産拠点としての供給責任を果たすべく更なる生産性向上に注力してまいります。

中国初のLMガイドの生産拠点であるTHK(無錫)精密工業有限公司は、2005年の2月より製品の出荷を開始いたしました。2005年度は

生産開始から1年目で3直による1日24時間の生産体制を確立し、2006年には4班体制で土日も稼働できる体制を目指しております。同時に工場外に不良品を出さないよう品質の向上に注力しました。現在の工場の稼働率は約50%ですが、2006年度は需要の増加に備え、現地社員がグループ毎に少なくとも毎月一件の改善を提案するなど、生産現場における改善活動を実施し、品質および生産性の向上に取り組みます。また、中国における更なる需要の増加に備えて、2006年11月の稼働を目指して第二工場棟を建設しております。THK無錫は、中国そしてTHKグループの中核を担う生産拠点となるよう、全従業員の総力を挙げて邁進してまいります。

THK(上海)国際貿易有限公司では、新規顧客のターゲットを絞り重点的にアプローチしました。その結果、工作機械向けにおける当社製品のシェアを向上させることができ、売上高を拡大することができました。現在、工作機械の消費額は中国が圧倒的に世界一ですが、生産額ではまだ世界で4位です。NC比率についても10%に満たないレベルであり、今後、中国においては工作機械の生産増加とNC化率の上昇によりLMガイドの需要が急速に増加するものと考えています。需要の増加に対応すべく、2005年9月に設立したTHK(中国)投資有限公司のもとに20の支店を設置する準備を進めています。これらの支店を中心に全国をカバーする広範な代理店網を構築するとともに、新規顧客の開拓にも注力していく予定です。急成長が期待される中国市場において、製販一体の強みを生かしNo.1シェアを獲得できるようにベストを尽くします。

新規分野への展開 New Businesses

FAI事業部



自動車の安全性向上に貢献する自動車用要素部品を製造・販売

FAI事業部は、自動車分野への業容拡大を目的として1999年に発足しました。現在は主に自動車の足回り機構に使われるリンクボールを日本、アメリカ、ヨーロッパの完成車メーカーに供給しています。採用メーカーおよび採用車種は年々確実に増加しています。リンクボールを戦略製品として完成車メーカーとの取引実績を積み、将来的にはTHKの主力製品であるLMガイドの自動車における使用率を高めることを目指しています。自動車部品としてのLMガイドはまだ一部での採用に留まっていますが、採用事例は少しずつ増えています。その一例である福祉車両向けでは、2006年度は前期に比べ売上高を倍に伸ばすことができる見込みです。福祉車両向けは社会福祉に直接的に貢献できる製品でもあり、今後も採用の増加に向けて積極的に取り組んでまいります。2005年度の当事業部の売上高は約60億円でした。今期はリンクボールの採用車種の増加とともに、LMガイド、その他THKの製品群での採用数を増やし、前年比約20%増の売上高を目指します。

ACE事業部



地震の脅威から人命や財産を守る免震・制震装置を製造・販売

ACE事業部は「快適さを求め、独創的な生活空間を、技術開発していこう」を基本コンセプトに2001年に発足し、地震の脅威から人命や財産を守る免震・制震装置を製造、販売しています。2005年度の売上高は約10億円でした。免震・制震装置は地震対策としては耐震よりも優れていますが、技術的にはまだデファクト・スタンダードが存在していません。したがって、免震・制震装置にはさまざまな構造が並存しており、市場には建設会社や住宅メーカーのほか、ゴムメーカーや油圧機器メーカーなども参入しています。こうした中でもTHKの免震・制震装置は、高負荷、高荷重といったLMガイドやボールねじの製品特性を活かし、高層住宅から一戸建てまでさまざまな建築物に対応することができます。特に従来難しいとされていた低層や軽量建築物の免震・制震技術では、THKは一步先を進んでいるものと自負しております。今後も建設会社や住宅メーカー、大手設計事務所などに対して、当社の免震技術を理解していただけるように積極的にPRするとともに、一般消費者の方々にも免震に対する理解を深めていただけるよう、セミナー・展示会等を積極的に開催するなど、販売促進に注力してまいります。

CAPプロジェクト



THK製品を最終消費財に応用し新市場を開拓

CAPプロジェクトは、THKの製品を最終消費財に応用することによって新しい市場を開拓することを目的に2002年に発足しました。THKの主な顧客は企業ですが、同プロジェクトでは最終消費者向けの新製品を中心に、THKの将来につながる独自の製品開発を目指しています。製品開発にあたって、先進的な製品開発と直近でビジネスにつながる開発を明確に区分して迅速な製品化を進めています。既に液晶プロジェクターのレンズシフトユニットや自動車のルーフボックス、また冷蔵庫やIHクッキングヒータ用のスライドレールなどユニークな製品も商品化されています。対象となる市場は、生活に密着した「家電」、アミューズメント機器を中心とした「生活環境財」、将来の市場拡大が期待できる「ロボット」、電動機器により自動化が進む「ヒューマンサポート・オートメーション」などです。2006年度の売上高計画は8.5億円とまだ規模は大きくありませんが、新製品開発と提案活動の更なる推進により毎年40%~50%の売上拡大を目指します。

MRCセンター



外科手術支援ロボットなど最先端技術分野における開発

MRCセンターは、最先端の技術分野での開発を手がけるために2000年に設置されました。現在、専従の技術者10名を擁し、外科手術支援ロボットなど、最先端技術分野における開発を手がけています。その開発を通じて日本最先端の大学の研究所と密接な関係を構築し、共同研究も行なっています。同センターの活動を通して、THKは産学連携の基盤を構築することができました。また、大手病院や医療器械メーカーとの協力関係を強化することで外科手術支援ロボットの実用化に向けて着実に実績を積み重ねています。外科手術支援ロボットは人体への負担を軽減すると同時に、精密な手術を短時間でこなうことができるメリットを持っており、同ロボットの市場は大きな可能性を秘めています。同ロボットの実用化を急ぐと同時に、それに次ぐ製品の開発にも注力しています。